

表 9.8-27(19) 保全すべき種の予測結果 (ハイタカ)

項目	内容					
主な生息環境	ツミよりやや標高の高い山地の林で繁殖し、冬季は平地から山地の林、農耕地、河川敷等に生息する。					
	予測地域 (ha)	11.3	改変区域内 (ha)	1.0	予測地域に対する消失の割合 (%)	8.8
現地確認状況	対象事業実施区域内で 1 例、対象事業実施区域外で 1 例、計 1 例が確認された。繁殖に係わる行動は確認されなかった					
	対象事業実施区域内	1 例	対象事業実施区域外	1 例		
予測結果	<p>対象事業実施区域及び周辺で 1 例が確認され、採餌や繁殖を示す行動はみられず、確認状況から通過個体だと考えられた。</p> <p>造成工事により生息環境となりうる樹林地の一部が一時消失するが、緑地整備の実施により、供用時には現在と同様の状況が維持され採餌環境を代償できることから、影響は小さいと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減される。また、本種は移動能力が大きいため、一時的に対象事業実施区域周辺へ逃避するとも考えられることから、工事中における間接的影響は小さいと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、本種は通過個体だと考えられることから、事業の実施に伴う影響は限定的であり、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p>					

確認位置

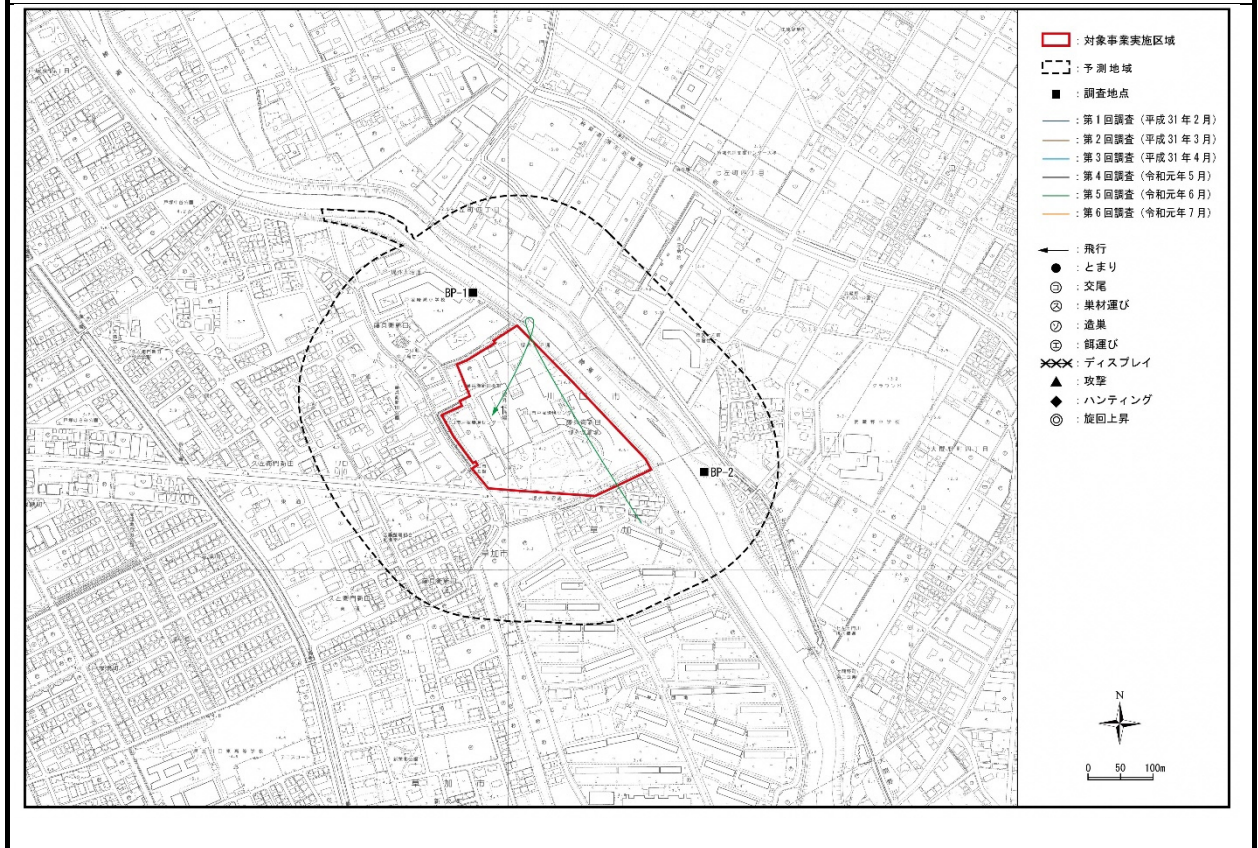


表 9.8-27(20) 保全すべき種の予測結果 (サシバ)

項目	内容					
主な生息環境	低山の林で繁殖し、林縁や農耕地、山林等でカエル、トカゲ、ヘビ、ネズミ、鳥類等を採餌捕食する。					
	予測地域 (ha)	11.3	改変区域内 (ha)	1.0	予測地域に対する消失の割合 (%)	8.8
現地確認状況	対象事業実施区域内で 2 例、対象事業実施区域外で 6 例、計 6 例が確認された。繁殖に係わる行動は確認されなかった。渡り途中の個体だと思われる。					
	対象事業実施区域内	2 例	対象事業実施区域外	6 例		
予測結果	<p>対象事業実施区域及び周辺で 6 例、そのうち 3 例が上空で確認された。採餌や繁殖を示す行動はみられず、確認状況から通過個体だと考えられた。</p> <p>対象事業実施区域内には、採餌環境となりうる農耕地等が存在しないことから、事業の実施に伴う生息環境（採餌環境を含む）の改変等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減される。また、本種は移動能力が大きいため、一時的に対象事業実施区域周辺へ逃避するとも考えられることから、工事中における間接的影響は小さいと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、本種は通過個体だと考えられることから、事業の実施に伴う影響は限定的であり、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p>					

確認位置

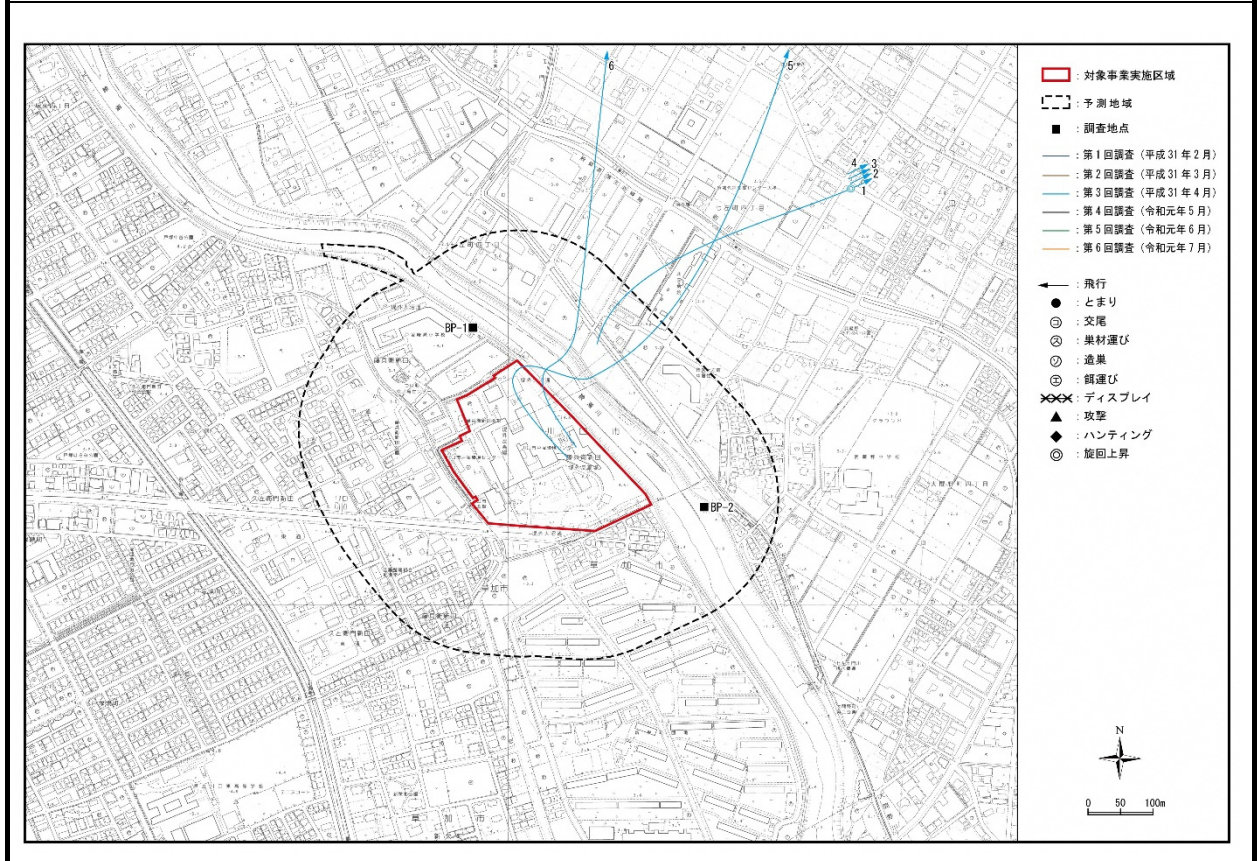


表 9.8-27(21) 保全すべき種の予測結果 (ハヤブサ)

項目	内容				
主な生息環境	平地から山地の海岸、河口、河川敷、湖沼、農耕地等に生息する。				
	予測地域 (ha)	7.5	改変区域内 (ha)	0	予測地域に対する消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域内で 2 例、対象事業実施区域外で 2 例、計 2 例が確認された。繁殖を示す行動はみられなかった。				
	対象事業実施区域内	2 例	対象事業実施区域外	2 例	
予測結果	<p>対象事業実施区域及び周辺で飛翔が 2 例確認され、生息環境の一部として利用している可能性があると考えられる。</p> <p>改変区域内に生息環境となる河川敷等はないことから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減される。また、本種は移動能力が大きいため、一時的に対象事業実施区域周辺へ逃避するとも考えられることから、工事中における間接的影響は小さいと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>				

確認位置

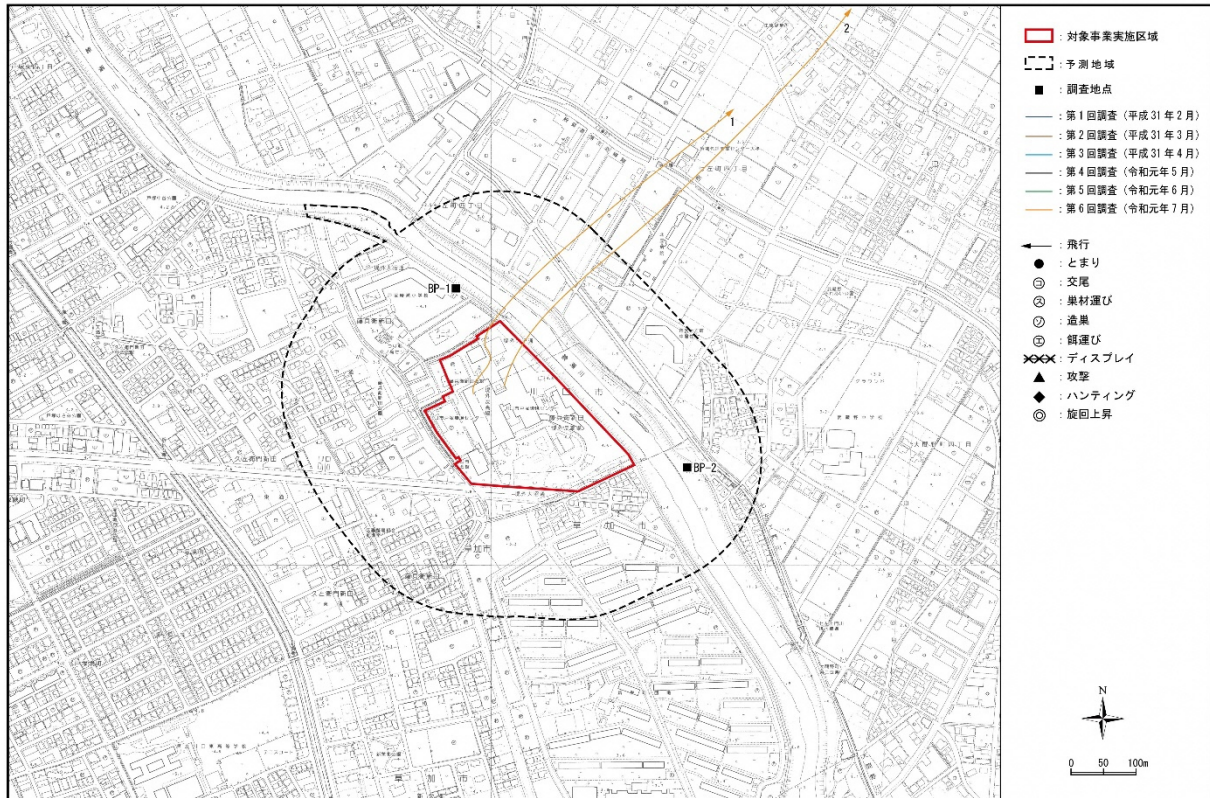


表 9.8-27(22) 保全すべき種の予測結果 (カナヘビ)

項目	内容				
主な生息環境	低地から山地にかけて広範囲に生息するが、低地や丘陵地で多く見られる。草むら等の日当たりのよい場所を好み、公園の緑地、水田の畦、人家の生け垣、畑地等の人為的な環境にも適応している。				
	予測地域 (ha)	11.3	変更区域内 (ha)	1.0	予測地域に対する消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域外では、住宅地の道路上、綾瀬川の堤防上、綾瀬川堤防の草地、水路沿い及びクワイ畑等で計 11 例が確認された。 対象事業実施区域内では草地 2 箇所計 2 例が確認された。				
	対象事業実施区域内	2 例	対象事業実施区域外	11 例	
予測結果	<p>対象事業実施区域外で 11 例が確認され、対象事業実施区域内の草地で 2 例確認された。本種の主な生息環境は、草むら等の日当たりのよい場所等であることから、対象事業実施区域及び周辺を生息環境の一部として利用していると考えられる。</p> <p>造成工事により生息環境である樹林地（植栽）の一部が一時消失するが、周辺に同様の環境が存在する。また、緑地整備の実施により、供用時には現在と同様の状況が維持され、生息環境を代償できることから、影響は小さいと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減され、影響は小さいと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>				

確認位置

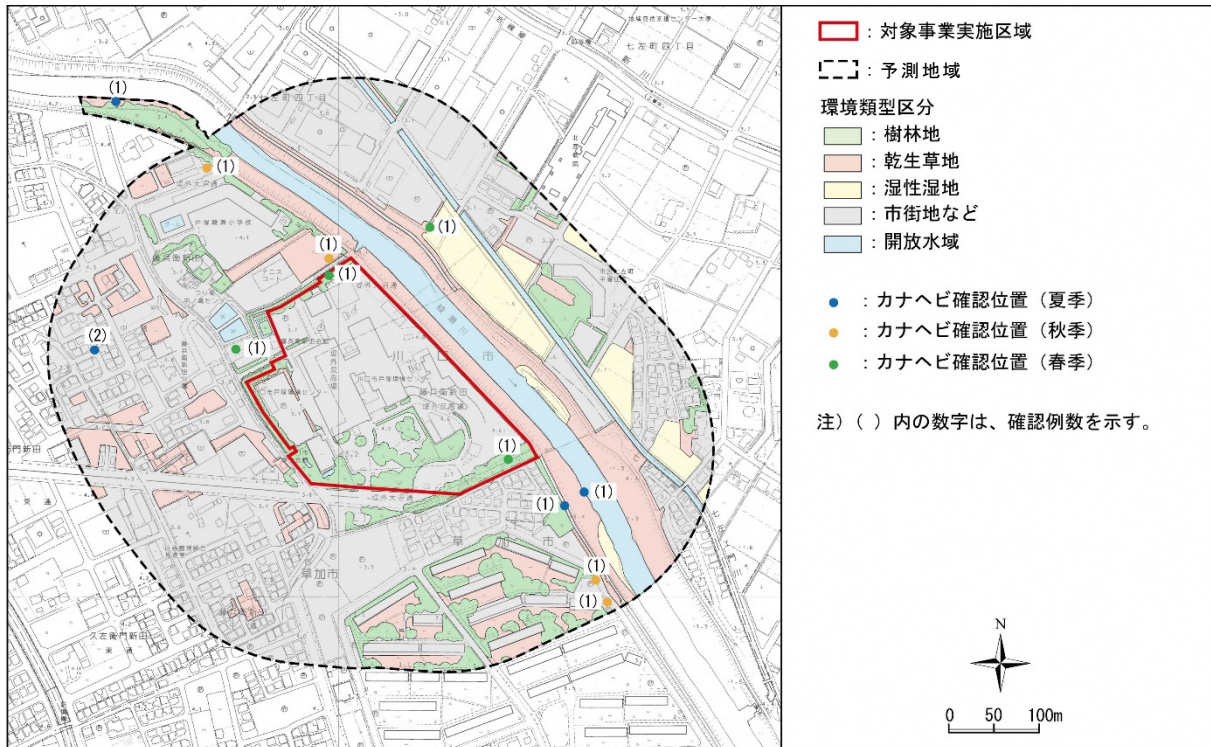


表 9.8-27(23) 保全すべき種の予測結果 (シマヘビ)

項目	内容				
主な生息環境	低地から山地まで広く生息し、日当たりの良い水田、草むら、畑地、沼地等の周辺を好む。				
	予測地域 (ha)	7.5	改変区域内 (ha)	0	予測地域に対する消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域外の水田で 1 例、綾瀬川の堤防の草地で 1 例が確認された。				
	対象事業実施区域内	0 例	対象事業実施区域外	2 例	
予測結果	<p>対象事業実施区域外で 2 例が確認された。本種の主な生息環境は、日当たりの良い水田、草むら、畑地、沼地等であることから、対象事業実施区域周辺を生息環境としている可能性が考えられる。</p> <p>改変区域内にこのような環境はないことから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減され、影響は小さいと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>				

確認位置

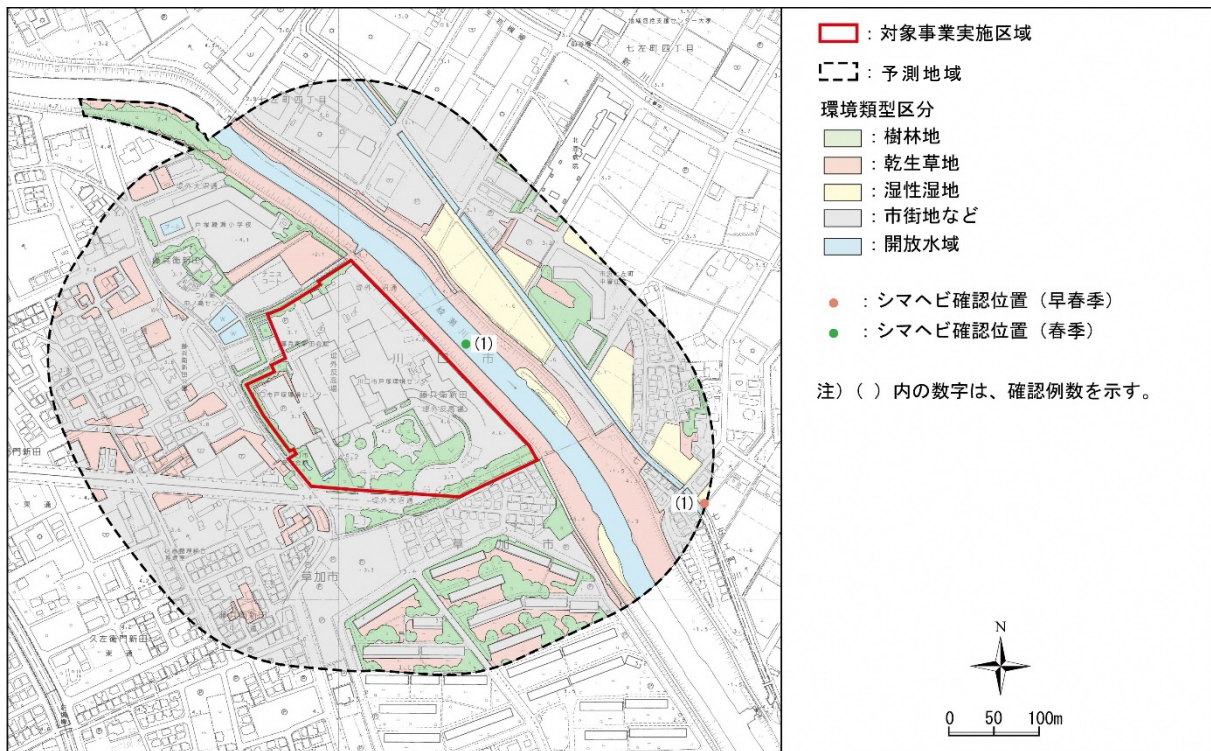


表 9.8-27(24) 保全すべき種の予測結果 (アオダイショウ)

項目	内容				
主な生息環境	低地から山地まで広く生息し、森林、水田、住宅地まで様々な環境に適応している。				
	予測地域 (ha)	34.0	改変区域内 (ha)	3.8	予測地域に対する 消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域外の綾瀬川を泳ぐ 1 例及び綾瀬の森で 1 例が確認された。				
	対象事業 実施区域内	0 例	対象事業 実施区域外	2 例	
予測結果	<p>対象事業実施区域外で 2 例が確認された。本種の主な生息環境は、森林、水田、住宅地等の様々な環境であることから、対象事業実施区域及び周辺を生息環境としている可能性が考えられる。</p> <p>造成工事により生息環境である樹林地の一部が一時消失するが、周辺には同様の環境が存在する。また、緑地整備の実施により、供用時には現在と同様の状況が維持され、生息環境を代償できるとことから、影響は小さいと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減され、影響は小さいと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>				

確認位置

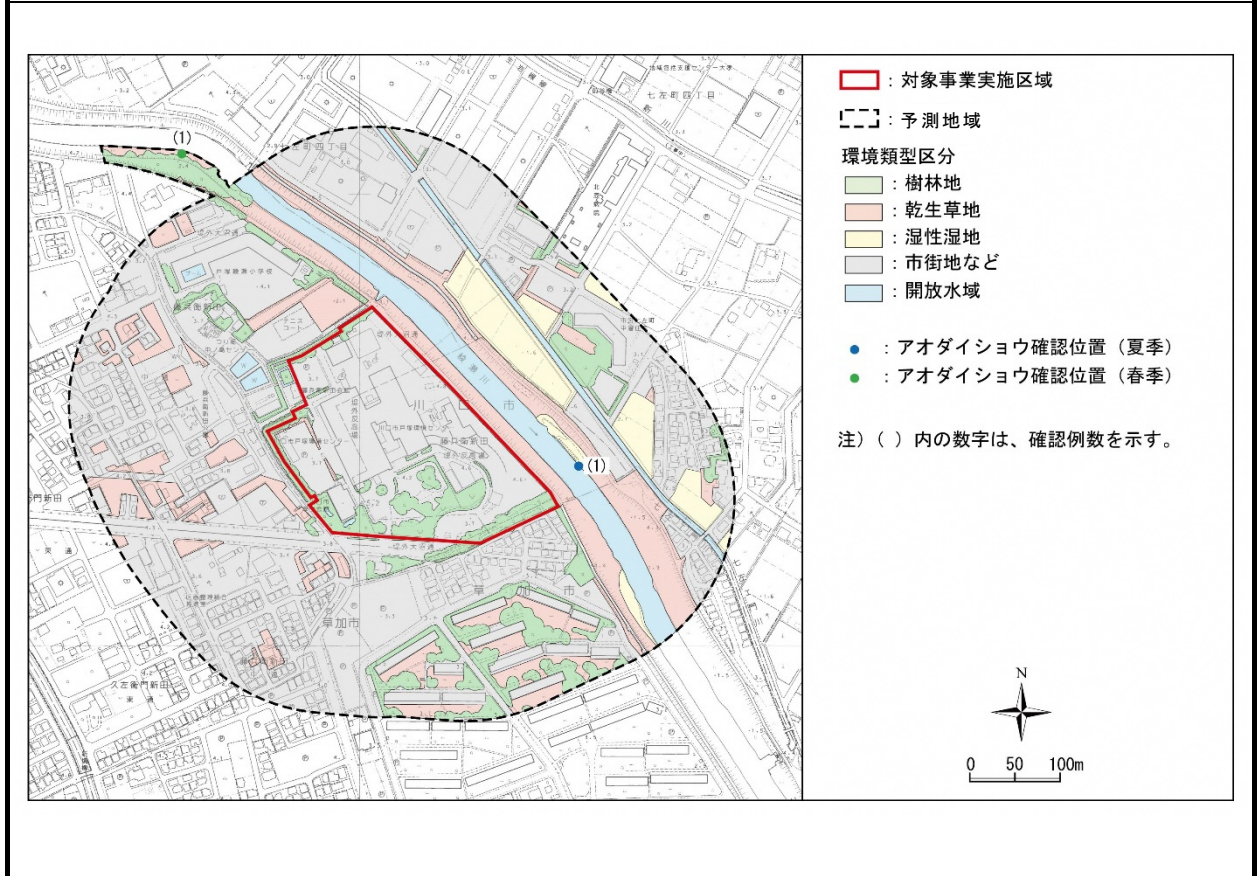
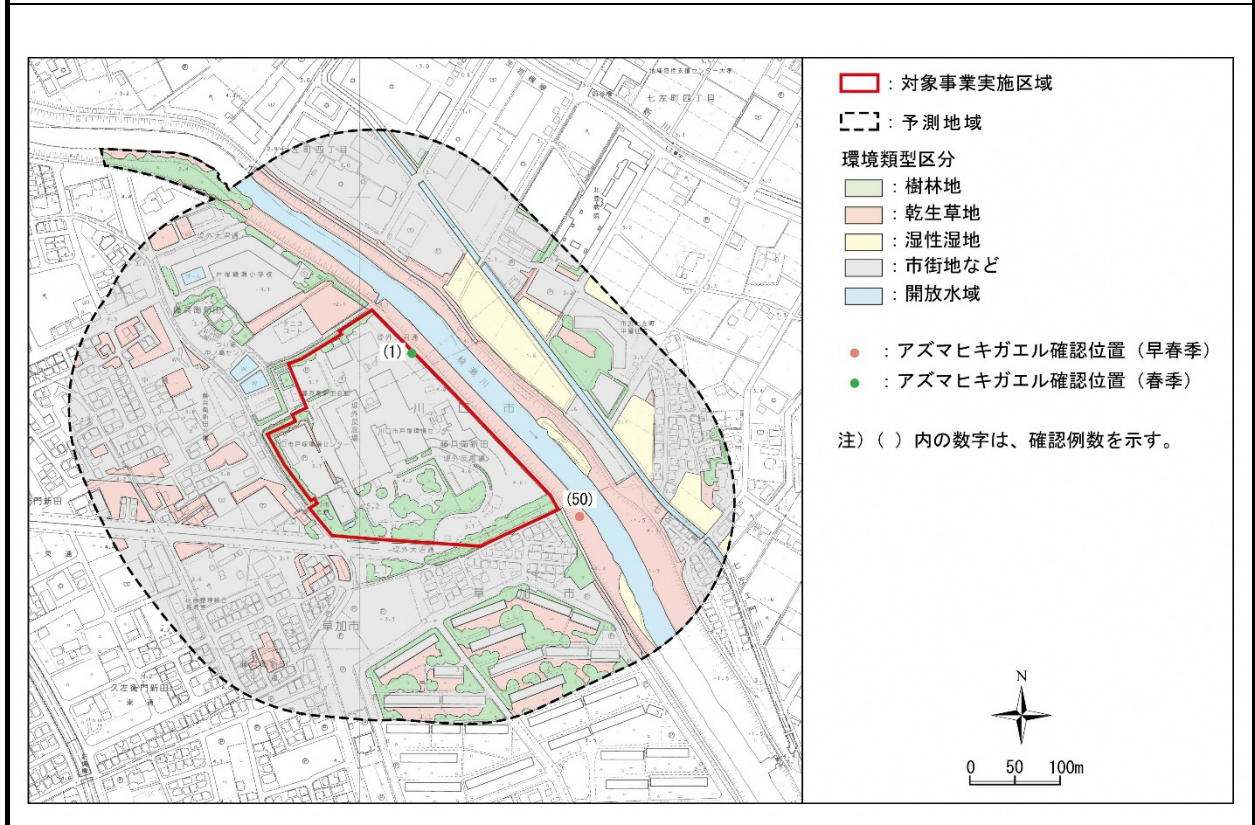


表 9.8-27(25) 保全すべき種の予測結果（アズマヒキガエル）

項目	内容					
主な生息環境	山地から平地まで広く分布し、主に林床で生息している。					
	予測地域 (ha)	13.6	改変区域内 (ha)	1.0 <sup>注)</sup>	予測地域に対する 消失の割合 (%)	7.4 <sup>注)</sup>
現地確認状況	対象事業実施区域外では綾瀬川の河川敷のビオトープ池で幼生 50 例が確認され、対象事業実施区域内では草地で成体の死体 1 例が確認された。					
	対象事業 実施区域内	1 例	対象事業 実施区域外	50 例		
予測結果	<p>対象事業実施区域外で幼生が 50 例、対象事業実施区域内で 1 例が確認された。本種の主な生息環境は林床であり、対象事業実施区域及び周辺を生息環境の一部として利用していると考えられる。なお、綾瀬川の河川敷で幼生が確認されていることから、対象事業実施区域周辺を産卵場所としていると考えられる。</p> <p>造成工事により生息環境である樹林地の一部が一時消失するが、周辺に同様の環境が存在することから、影響は小さいと考えられる。なお、産卵場所と想定される綾瀬川の河川敷は、改変区域に含まれていないことから改変はない。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化による生息環境の質的変化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減され、影響は小さいと考えられる。なお、濁水による生息環境の質的変化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できるとともに、現在と同様の状況が維持されることで生息環境を代償できると考えられることから、供用時における影響は小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境（産卵場所を含む）の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>					

確認位置



注) 改変区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生息環境ではないため、改変区域内の生息環境から除外した。

表 9.8-27(26) 保全すべき種の予測結果（トウキョウダルマガエル）

項目	内容				
主な生息環境	丘陵地から平地の水田と、周辺の水路や浅い池沼、河川敷の湿地等に生息する。産卵は水田の湛水期である5～7月頃におこなわれ、産卵場所は水田にほぼ依存している。				
	予測地域 (ha)	4.0	改変区域内 (ha)	0 <sup>注)</sup>	予測地域に対する消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域外のクワイ畑、水田、水路等で計14例が確認された。				
	対象事業実施区域内	0例	対象事業実施区域外	14例	
予測結果	<p>対象事業実施区域外で14例が確認された。本種の主な生息環境は、水田と、周辺の水路や浅い池沼、河川敷の湿地等であり、対象事業実施区域周辺を生息環境の一部として利用していると考えられる。また、産卵場所は水田にほぼ依存していることから、対象事業実施区域周辺にある水田を産卵場所としていると考えられる。</p> <p>対象事業実施区域内には、本種の主な生息環境（産卵場所含む）はないことから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化による生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減され、影響は小さいと考えられる。なお、濁水による生息環境の質的变化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境（産卵場所を含む）の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>				
確認位置					
<p> <span style="border: 1px solid red; display: inline-block; width: 10px; height: 10px; vertical-align: middle;"></span> : 対象事業実施区域  <span style="border: 1px dashed black; display: inline-block; width: 10px; height: 10px; vertical-align: middle;"></span> : 予測地域  <b>環境類型区分</b>  <span style="background-color: #90EE90; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 10px; height: 10px; vertical-align: middle;"></span> : 樹林地  <span style="background-color: #FFDAB9; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 10px; height: 10px; vertical-align: middle;"></span> : 乾生草地  <span style="background-color: #FFFFE0; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 10px; height: 10px; vertical-align: middle;"></span> : 湿性湿地  <span style="background-color: #D3D3D3; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 10px; height: 10px; vertical-align: middle;"></span> : 市街地など  <span style="background-color: #ADD8E6; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 10px; height: 10px; vertical-align: middle;"></span> : 開放水域  <span style="color: blue;">●</span> : トウキョウダルマガエル確認位置（夏季）  <span style="color: orange;">●</span> : トウキョウダルマガエル確認位置（秋季）  <span style="color: green;">●</span> : トウキョウダルマガエル確認位置（春季）                      注）（ ）内の数字は、確認例数を示す。                 </p>					

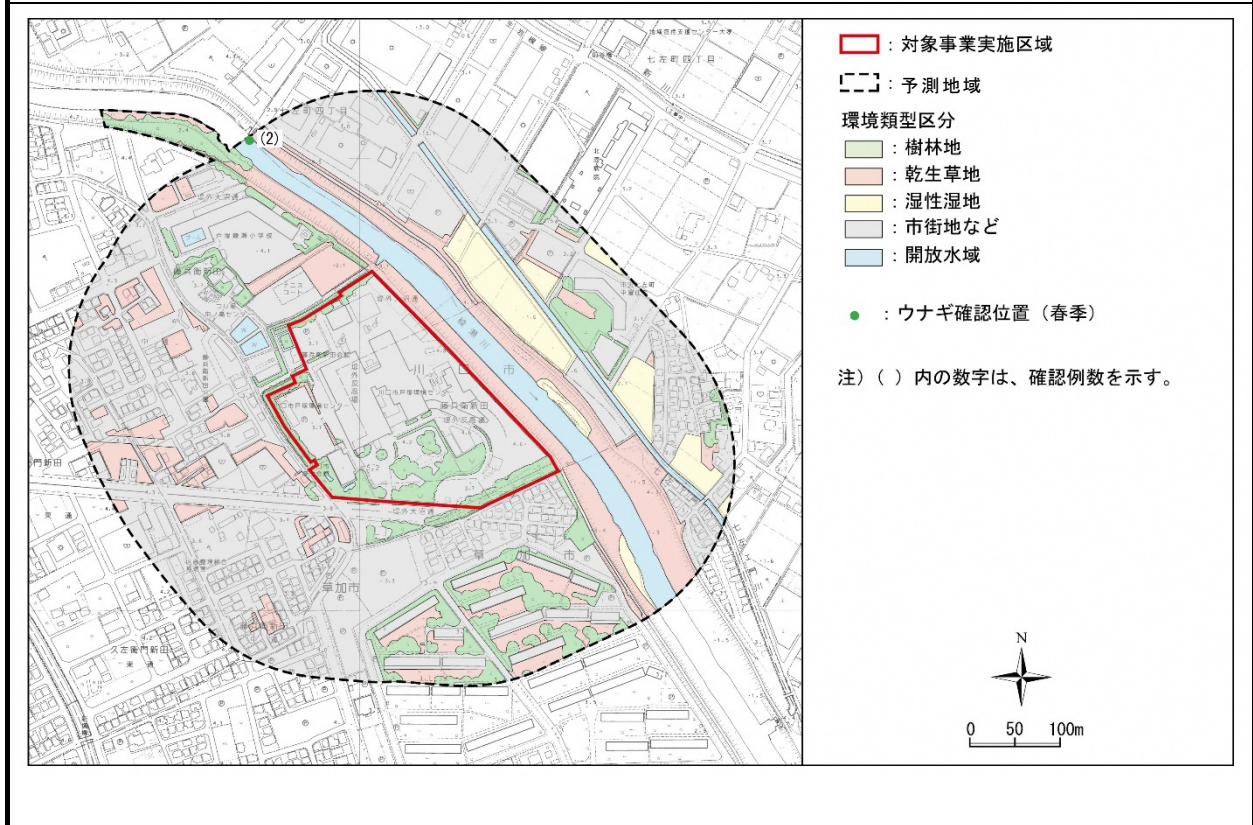
注) 改変区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生息環境ではないため、改変区域内の生息環境から除外した。



表 9.8-27(27) 保全すべき種の予測結果 (ウナギ)

項目	内容					
主な生息環境	海と川を行き来し、水田や池にまで遡上できるような河川環境が必要である。浮き石、植生、あるいは流れが緩やかな場所の石と石の隙間等で、隠れ場所となる生息空間が必要である。					
	予測地域 (ha)	3.8	改変区域内 (ha)	0 <sup>注)</sup>	予測地域に対する消失の割合 (%)	0 <sup>注)</sup>
現地確認状況	綾瀬川 (F-1 地点) 左岸の水路の流れ込み部で 2 例が確認された。					
	対象事業実施区域内	0 例	対象事業実施区域外	2 例		
予測結果	<p>対象事業実施区域外にある綾瀬川で 2 例が確認された。本種の主な生息環境は、浮き石等の隠れ場所となる生息空間がある河川である。対象事業実施区域内の開放水域は人工的な庭園であり、改変区域内には本種の生息環境はないことから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響はない。</p> <p>工事中は、光環境の変化といった生息環境の質的変化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減され、影響は極めて小さいと考えられる。また、濁水による生息環境の質的変化はないことから、生息環境への間接的影響はないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>					

確認位置

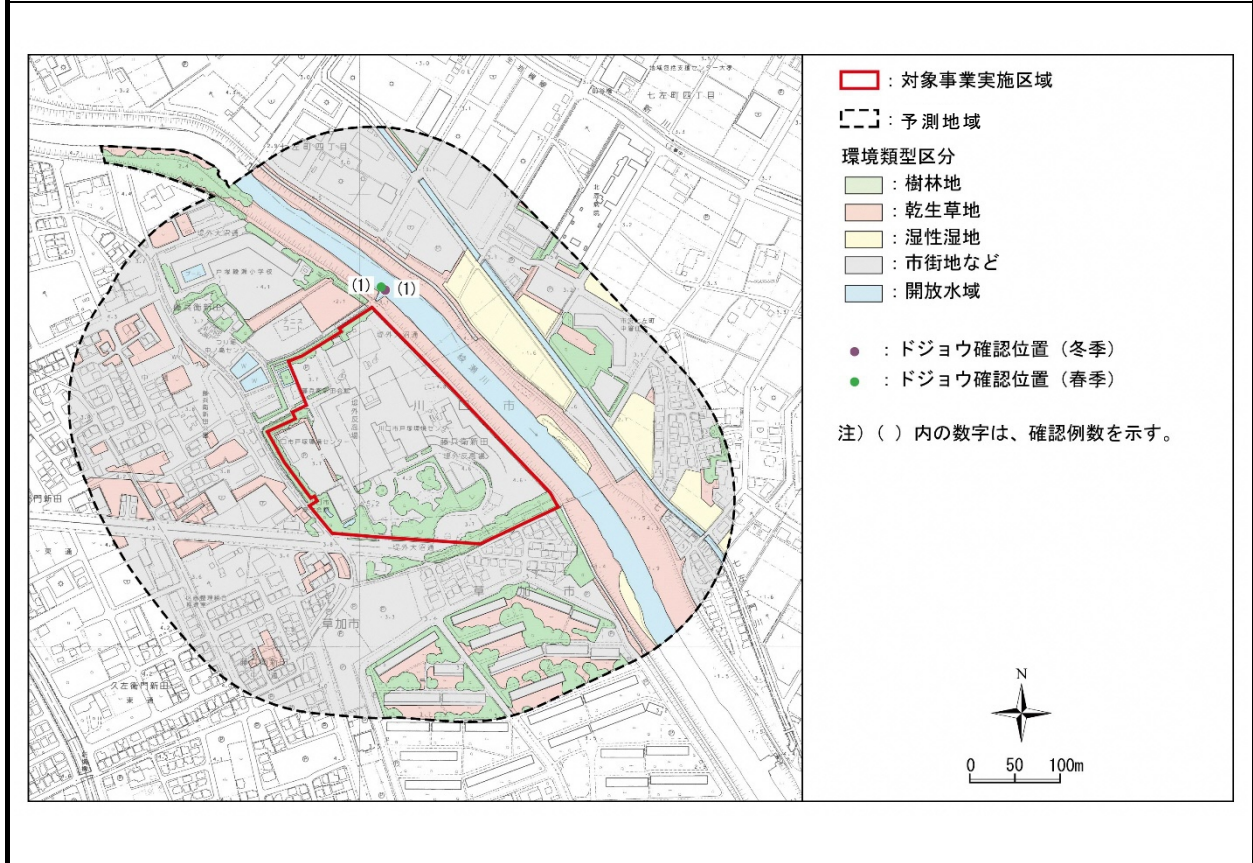


注) 改変区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生息環境ではないため、改変区域内の生息環境から除外した。

表 9.8-27(28) 保全すべき種の予測結果（ドジョウ）

項目	内容				
主な生息環境	水田や池沼、水路、河川の中・下流等多様な環境に生息する。				
	予測地域 (ha)	3.8	改変区域内 (ha)	0 <sup>注)</sup>	予測地域に対する 消失の割合(%)
現地確認状況	綾瀬川（F-2 地点）で計 2 例が確認された。				
	対象事業 実施区域内	0 例	対象事業 実施区域外	2 例	
予測結果	<p>対象事業実施区域外にある綾瀬川で 2 例が確認された。本種の主な生息環境は、水田や池沼、水路、河川の中・下流等多様な環境である。対象事業実施区域内の開放水域は人工的な庭園であり、改変区域内には本種の生息環境はないことから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響はない。</p> <p>工事中は、光環境の変化といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減され、影響は極めて小さいと考えられる。また、濁水による生息環境の質的变化はないことから、生息環境への間接的影響はないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p>				

確認位置



注) 改変区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生息環境ではないため、改変区域内の生息環境から除外した。